

# PROLOGUE

木二中 学校だより No.13 令和6年7月2日  
校長 山元 竜二

木更津市立木更津第二中学校  
〒292-0801 千葉県木更津市請西941番地  
☎0438(36)2280 FAX0438(36)2233  
E-mail:kisarazu2-j@kisarazu.ed.jp  
<https://www.fureai-cloud.jp/kisa-kisarazu2-j>



## 「社会通念の崩壊(欠如)」を考える

中学生の皆さんは、「社会通念」という言葉を聞いたことがありますか？社会通念とは、「社会一般に通用している常識や見解に照らして」という意味で、簡単に言えば一般的な考え方や常識のこと。「法律」ではないので、明文化されていないことが多いのですが、法の解釈や裁判調停などにおいて一つの判断基準として用いられることもあります。

昭和から平成、令和と元号が変わり、時代の変化と共に人々の価値観や考え方も移り変わっていくのは必然だと思いますが、どんなに時代が変わろうとも決して変わることはない(変えてはならない)「大切なもの(こと)」が存在しているということを私たちは忘れてはいけません。それは、社会通念のベース(基礎・基本的な部分)となるものではないかと私は考えています。社会通念だって時代が変われば、その時代に見合ったものに変化していくのも当然のこと。人はそれを「改革」とか「革新」、「刷新」、「更新」、「更改」なんていう言い方をするのかもしれないけど、そのベースとなるものには必ず「変わることはない(変えてはならない)もの・こと」が存在していると思います。皆さんはそれが何だと思いますか？人それぞれに答えがあつていいと思いますが、私の答えは一言で言うと「人の心」ではないかなあと…。人が人を大切だと思ふ心。家族であれば当たり前だし、兄弟姉妹、同年代の仲間、先輩後輩、あるいは師弟であったり、上司と部下だったりと関係性は何であれ、他者を思う心が社会通念のベースになればならないと…。どの時代であっても、です。

## 「法の抜け道」を通ればこっちのもん!?

PROLOGUE No. 12で皆さんには伝えましたが、自身の目を社会に向けてみてください。ネットニュースでもテレビでも新聞でも何でもかまわないので、1日に一度でいいから報道に触れてみてください。

PROLOGUE No. 12で話題にした「カスハラ」もそうですが、今、旬のニュースは？と言えば、七夕決戦と謳われている東京都知事選挙ではないでしょうか？誰が当選するとかしないとか、そんな話ではありません。連日報道されている選挙戦のあり方について、社会通念上、どうなんだろう？という話です。

本来、候補者のポスターが貼られるはずの掲示板に異質なものが貼られていたり、掲示板そのものが売買されていたり(法で規制はされていないのだそう…)、少し前になりますが、東京15区の補欠選挙で話題になった選挙妨害だったり。どれも法には触れていない(選挙妨害については、後に「選挙の自由妨害容疑」で逮捕されました)のだからいいだろう、というのが当事者たちの言い分ではありますが、はたして、法に触れさえしなければ何をしてもいいなんていう論理は成立するのだろうか？これ、お金を払ってさえいれば客が何を要求してもいいだろう、と同じだと思いませんか？

## Diversity(多様性) = Anythig goes(何でもアリ) ではない

6月20日の告示以降、東京都知事選挙の選挙ポスターをめぐる、「みだらな画像が貼ってある」とか、「一つの掲示板に同じポスターが何枚も貼られているのはなぜか？」といった苦情や疑問などが、6月20日から21日午前にかけて、1,000件以上も都の選挙管理委員会に寄せられる異例の事態になっているとのこと。(6月21日18:55配信 NHK NEWS WEB 都の選挙管理委員会より)

至極(極めて道理にかなっていること)当たり前のことだと思いますが、みだらな画像のポスターについては、都の迷惑防止条例に抵触するおそれがあるとして、警察当局が警告、これによりポスターを掲示板に貼った候補者が即時撤去の上、謝罪する事態に。さらにはそのポスターの画像本人がX(旧ツイッター)を更新、「殺害予告」が寄せられたと報告し、「被害届け提出も含め警察に相談することになる」と…。

この記事に対して、当然様々な意見や考え方があつていいのだけれど、寄せられたコメントは、「因果応報(いんがおうほう:人はよい行いをすればよい報いがあり、悪い行いをすれば悪い報いがあるということ)とか、「同情する気になれない」とか冷ややかなものばかり。

本来候補者と候補者の政見(せいけん:政治を行う上での意見・見解のこと)が記されているはずの掲示板にみだらなポスターを貼ったことで不特定多数の人々に極めて不快な思いをさせておいて、それが原因で自身に殺害予

告が寄せられた途端に「警察に相談する」って…。殺害予告を送りつけることを肯定しているわけではありませんよ、殺害予告は立派な「脅迫」という犯罪です。それはダメ、絶対。しかし、法律に触れる行為ではないからという理由でみだらなポスターを貼る行為そのものが一人の大人としてどうなのか？それが社会通念上、道理にかなっているのかどうか？ちょっと想像力をはたらかせれば小学生にもわかることではないでしょうか？実際にそんなポスターの前を小中学生が登下校している光景を思い浮かべるだけで心が痛くなるのは私だけではないと思うのです。

今や時代は多様性、いろいろな人がいていい、いろいろな価値観や考え方があっていい、だから人と違っていいということと、法に触れていなければ、あるいは金さえ払っていけば、何をしてもいいということとは明らかに違う。Diversity=Anything goesではない。

### **社会通念… Majority?(多数派) Minority(少数派)? 普通? 普通って何が基準?**

「社会通念だってその時代その時代に見合ったものに変化していく」と記しました。では、その時代その時代の社会一般に通用する常識とは何か？という世間の多数派=マジョリティなのか？多数派が「普通」ということなのか？では、少数派=マイノリティは「普通」ではない、「異常」ということになるのか？そもそも「普通」とは何を、そして誰を基準に「普通」と判断されるのか？難しいテーマですね。私が何を言いたいのかわかりますか？

世の中、「普通」という「異常」、「異常」という「普通」が交錯し合って成り立っているということ。多数派が普通でも異常でもなければ、少数派が普通でも異常でもない。わかりやすく言うと、誰かにとっての「普通」は別の誰かには「異常」であり、誰かにとっての「異常」は別の誰かには「普通」なんていうことは当たり前にあるんだということ。人は誰でもその「普通」からはみ出さないように生きようとしますが、そもそも「普通」なんていう基準なんかこの世にはない。だからこそ、何か行動を起こそうとする時、誰かに何かを伝えようとする時、自分の価値観や考え方を発信しようとする時、そのベースには必ず「人を大切に思う心」が何よりも必要になるんだということなんです。

悲しいかな、今の世の中は、人の迷惑を省みない、自分さえよければそれでいい、アクセス数を増やして金を稼げれば他人が不幸になろうと知ったことではない…といった風潮が蔓延しているのが現実。

社会通念が崩壊(欠如)してしまっているこの世の中に、中学校、高校、人によっては大学、専門学校と手塩にかけて育てた学生(君たち)を送り出さなければならないことに、そんな世の中を形成している同じ一人の大人として、歯がゆい思いでいるのは、決して私だけではないと思います。

それはなぜかという、中学校という教育現場でまだ真っ白な君たちに、人を大切にできる心が大切だよ、と言う一方で、「この世の中には一定数の悪い人たちがいるからな」ということを教えなければならない。「人を簡単に信用してはならない」ということを教えなければならないからです。

### **2名の3年生(女子生徒)が校長室を訪ねてくれました**

「校長先生、学校だよりを読みました！これが私の解答と考えなんですけど、見てもらえますか？」と日替わりで3年生2名が校長室を訪ねてくれました。

「答え、これで合っていますか？3.の問題について、私はこう思うんですが…、」と短い時間ではありましたが、自分の思いを語ってくれました。

「お金を払えば客は何でも許されるというのは違うと思います。」と。

私が書く学校だよりについては、賛否があるのは承知しています。「こんなに文字が多けりゃ中学生は誰も読まないよ。」とか、「中学生には内容が難しすぎるよ。」とか。そんなことは百も承知で毎週書かせてもらっています。多くの生徒が読んでくれるまでスタイルを変えずに書き続けます。

高校入試の国語や英語には長文問題が定番です。長文問題には、世の中の動向を理解していなければ解けない問題もあります。

そもそも「普通」の学校だよりってどんな学校だよりなんだろう？13~15歳の若者たちに校長として、大人として、熱い思いを届ける学校だよりがあってもいいじゃないか、そんな思いで綴らせてもらっています。次は何人の生徒が「校長先生、読みました！」と声をかけてくれるだろう。楽しみにしています。